

平成29年11月1日

米国コロラド州立大学から福島大学へ 福島県避難地域の野生生物研究について

原発周辺地域における放射線被ばくが野生生物に与える影響の解明を目指す研究が本年度の foR-A プロジェクト()に選ばれ、この研究分野には多くの注目が集まっています。

一方、平成28年度よりコロラド州立大学のサマープログラムにおいて、放射線分野を研究する大学院生が環境放射能研究所にて活動を行っています。昨年、主に浪江町などで野生生物の研究を行ったドノヴァン・アンダーソンさんは、福島大学で環境放射能分野の研究がしたいと福島大学に籍をおき、難波所長やトーマス・ヒント教授、石庭寛子特任助教と共に活動しています。

アンダーソンさんから見た福島での研究、そして石庭特任助教の研究について報告させていただきます。

環境放射能研究所における野生生物の研究について

研究を進める上で、野生生物の健康リスクを予測するには、被ばく線量を把握する必要があります。しかし、野生生物は汚染レベルが大きく異なる様々な場所を移動するため、すべての生息地の汚染レベルを測定し、それぞれの場所で野生生物が過ごす時間を把握するのは容易ではありません。野生生物に対する放射線被ばくの影響をどのように評価するのは科学者の間でも広く議論が重ねられている課題です。

野生生物研究の発表会について

「第5回 福島大学環境放射能研究所研究活動懇談会 福島県の避難地域の野生生物のいま」

日 時：平成29年11月25日(土) 13:00～16:00

場 所：東京都江東区・日本科学未来館 7F 未来館ホール

研究発表：

「環境中における放射性セシウムの“ふるまい”と福島県の状況」塚田祥文 教授

「福島高線量地域に生息する野生生物の状況～消滅か繁栄か?～」(逐次通訳あり)

トーマス・ヒント 教授

「原発周辺水域における魚類の放射性セシウム汚染状況」和田敏裕 准教授

主催：福島大学環境放射能研究所

()「foR-A プロジェクト」...福島大学では、平成27年度から「中井プラン2021」で示した「『21世紀的課題』が加速された福島県の課題」の解決に結びつく研究を重点研究分野として指定し、研究費を重点配分する「foR プロジェクト」を実施しています。「foR-A プロジェクト」は、福島県の地域課題の解決に必要な研究を行う単年度指定のプロジェクトであり、RはResearch(研究)、FはFuture(未来)、AはArea(地域)の頭文字です。

(お問い合わせ先)

福島大学環境放射能研究所 事務室

電話：024-504-2114 FAX：024-503-2921

メール：ier@adb.fukushima-u.ac.jp

福島^の避難地域の

Wildlife in the Fukushima evacuation area now?

野生生物のいま

平成 29 年

11/25  土 13:00 ~ 16:00
受付 12:30 ~

場所 日本科学未来館 7F 未来館ホール

入場無料 事前申込制 <https://goo.gl/forms/nuDR4hdHnVkcROf1>
※当日受付も若干可

プログラム

環境中における放射性セシウム(Cs)の"ふるまい"と福島の状況
Behavior of Radiocaesium in the Environment and Its Status in Fukushima

塚田祥文 (教授)

**逐次
通訳** 福島高線量地域に生息する野生生物の状況～消滅か繁栄か?～
Wildlife in Fukushima's highly contaminated areas...perished or thriving?

トーマス・ヒントン (教授)

原発周辺水域における魚類の放射性セシウム汚染状況

Radiocesium contamination levels of fish inhabiting water bodies near the
Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant

和田敏裕 (准教授)

福島の今を
知りたい人
必見

福島大学が原発周辺地域に生息する
生き物の現状・課題についてお伝えします

カンキョウホウシャノウケンキウジョ 環境放射能研究所って？

大気中のちりから河川・湖沼、海洋、
農水産物などに含まれる環境中での
放射性物質の動きを調べています。

●お問合せ・申込み●

福島大学環境放射能研究所

<http://www.ier.fukushima-u.ac.jp/>

Tel 024-504-2114 Fax 024-503-2921

ier@adb.fukushima-u.ac.jp

アクセス



■電車

新交通ゆりかもめ 「船の科学館駅」下車、徒歩約5分
/ 「テレコムセンター駅」下車、徒歩約4分

東京臨海高速鉄道りんかい線 「東京テレポート駅」下車、
徒歩約15分

■無料巡回バス

「日本科学未来館」下車 ※臨海副都心内を無料で巡回している
バス「東京ベイシャトル」(11:35より19:15の間、20分間隔で運行)

平成 29 年

11/25 土

13:00 ~ 16:00

場所 日本科学未来館 7F 未来館ホール

福島^の避難地域の

Wildlife in the Fukushima evacuation area now?



野生生物のいま

福島大学が原発周辺地域に生息する
生き物の現状・課題についてお伝えします

プログラム

- 13:00 挨拶
- 13:10 環境中における放射性セシウム(Cs)の“ふるまい”と福島の状況
Behavior of Radiocaesium in the Environment and Its Status in Fukushima
- 13:40 福島高線量地域に生息する野生生物の状況～消滅か繁栄か?～
Wildlife in Fukushima's highly contaminated areas...perished or thriving?
- 14:35 休憩
- 14:45 原発周辺水域における魚類の放射性セシウム汚染状況
Radiocesium contamination levels of fish inhabiting water bodies
near the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant
- 15:10 休憩
- 15:50 意見交流

登壇者プロフィール



塚田祥文 つかだひろふみ

環境放射能研究所副所長・教授。長年にわたり環境放射生態学を専門とし、主に陸域環境中における放射性核種の移行動態と関連する存在形態について、特に土壌-植物系、大気環境、陸水環境における放射性物質の挙動とその変動要因について研究。内閣府、農林水産省、青森県、福島県、茨城県、鹿児島県等の委員等を歴任し、昨年度は浪江町除染検証委員会委員長を務めている。



和田敏裕 わだとしひろ

環境放射能研究所准教授。専門は、魚類生態学、水圏放射生態学。震災前は、主にカレイ類を中心とした海産魚類の生態特性の解明、および栽培漁業の技術開発に関する調査に従事した。震災後は、福島県^の海産魚ならびに淡水魚の放射性物質汚染に関する調査に従事し、研究成果を国内外に報告している。昨年度以降は福島県地域漁業復興協議会委員として福島県^の漁業復興をサポートしている。



トーマス・ヒントン Thomas Hinton

環境放射能研究所・教授。アメリカ合衆国出身、スイスのポールシェラー研究所、ジョージア大学、同大学サバンナリバー生態研究所に勤務。フランスの放射線防護・核安全研究所にて、欧州の放射生態学分野のコンソーシアムでコーディネーターを務めたのち、現職。福島県^の被災地域における野生動物の線量等に関する研究に取り組む。

■福島大学環境放射能研究所研究活動懇談会について

福島大学環境放射能研究所 (IER) では、平成 25 年 7 月の設立以来、環境放射能分野での最先端研究を実施する唯一の学術研究機関としての役割と放射能汚染問題を抱える福島県に存在する研究機関としての役割を担っています。とくに福島県^の避難指示区域などをフィールドとして、各地方自治体の職員の方々や、地域住民のみならずのご理解・ご協力のもと研究を実施しています。IER では、その研究成果について、地域の方々へフィードバックし、参加者からの率直な声を聞く場として、研究活動懇談会を実施しています。

●お問合せ・申込み●

福島大学環境放射能研究所

<http://www.ier.fukushima-u.ac.jp/>

<https://goo.gl/forms/nuDR4hdHnVkacROf1> (申込フォーム)

Tel 024-504-2114

Fax 024-503-2921

ier@adb.fukushima-u.ac.jp

主催 国立大学法人福島大学環境放射能研究所